



菊池 美也 議員

一問一答方式

恒久平和を希求

市長・教育長

次世代に活動をつなげていくことが大切

問 未来を担うわらすつこに、どのような平和学習の機会を設けていくか。

答(教育長) 命を大切に心や人を思いやる心、先祖を敬う心とともに、人権尊重意識の醸成や、お互いの立場や意見を認め合う寛容性、異なる文化や習慣を理解し尊重しようとする態度を育成する日頃の指導の積み重ねが、平和教育の礎となる。また、総合的な学習

で、戦争体験者から直接話を聞く機会を設けている。子ども達が平和の大切さや戦争の恐ろしさを理解し、平和を願う心が受け継がれていくよう、今後とも平和学習を着実に推進したい。

い。感染症などの影響により、人数を限定するときにあっても、それぞれの人がそれぞれの場所で、全戦没者の諸霊に感謝し追悼できるように促していきたい。

問 市が保存収集している遺品の今後の活用についての考えは。

答(市長) 200点ほどの遺品を宮守総合支所の一角に保存している。平和を強く願う方々

問 他自治体のように、戦没者遺族会の事務局職を行政が担う考えは。

答(市長) 遺族会のご家族が受け継ぐこともできる。そういう努力こそが戦争の風化を防ぐ。市は伴走したい。

問 戦没者追悼・平和祈念式に次世代の参加を促してはどうか。

答(市長) 支障がある点については相談していけば良

戦没者の遺品をお寄せください

Info. 7

市は、戦争を知らない世代に恒久平和を伝えていくため、戦没者の遺品などを収集・保管し、展示していくことを検討しています。ご遺族の皆さんが所有している戦没者の遺品について、市に提供(寄贈または貸与)いただけるものがありましたら、市福祉課(☎68-3191)までご連絡ください。



※写真はイメージです

広報遠野 2017-09

広報遠野 2017年9月号より

中学校部活動の地域移行

教育長 できる部があれば 順次やっていくことも

問 国は、来年度以降段階的に休日の部活動を地域に移行していく考え。遠野の方針は。

答(教育長) 検討委員会を今年度中に立ち上げる。学校、保護者、各団体等との連携を図りながら、地域部活動の主体となる団体の選定や導入時期等について、慎重に検討する。

国の動向を注視し、望ましい部活動環境の構築と遠野の実情に応じた体制整備に努めた

小さな拠点による 地域づくりの取組状況は

市長 地区センターは地域の再重要拠点、ますます良くするために取り組んでいきたい

ますます良くするために取り組んでいきたい

問 現在7つの地区センターで指定管理者制度による運営がなされているが、順調に推移しているか。

すます良くするために協議をし、改善を進めながら取り組んでいる状況であると認識している。

問 少子高齢化が進行する中、地域活性化の面でも地区センターの果たす役割は大きい。この地域運営組織を通じて対策を講じていく事が肝要であるが、どの

答(市長) 課題も見えてきたが、地区センターは地域の最重要拠点である。各指定管理者も1年を通して経験したことを踏まえ、今後はま

ように考えるか。

答(市長) 地区センターも地域

運営組織の一つと捉えて、いろんな形式の法人人格があってもいいのではないか。農業生産の法人組合だけではなく、農村RMOとして様々な形の組織体と合致形成を検討し、活動に使えることを知って促進していきたい。

問 中学校部活動に係る教職員の部活動指導や運営の業務負担が全国的に課題となっているのか。

答(教育長) 市内3中学校において

問 遠野市では現在、中学校に部活動指導員を配置しているとの事であるが、教員の負担を解消することに至っていないのでないか。来年度に向けて定員数をより多く確保する必要性はないか。

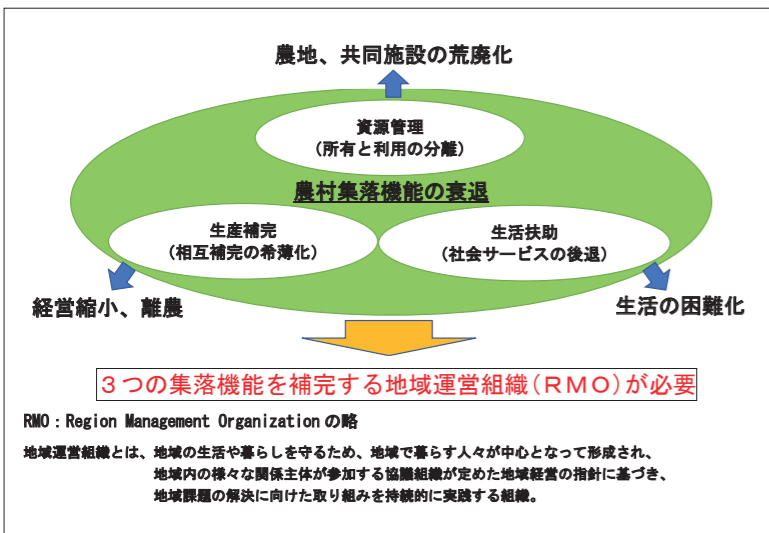
答(教育長) 現在3つの中学校に5名の部活動指導員を配置している。部によって外部指導者として地域の方々に参画いただき、競技力向上や生徒の健全育成のため

は、運動部、文化部合わせて17種類31の部がある。それぞれに1名以上の教員が顧問として配置されている。部活動は教員の勤務を要しない日の活動もあり、献身的な勤務によって支えられている。場合によっては、大きな負担になっている実情もある。



菊池 巳喜男 議員

一問一答方式



中学校部活動に係る教職員の対応と実態、今後の方向性は

教育長 3つの中学校に5名の部活動指導員を配置している